入 学 者 の こ と ば

入学者のことば

歯学科１年　小　川　果　澄

秋田から新潟に引っ越して数日後の初めて歯学部１年生が顔を合わせる日に、私はこれから６年もの間を一緒に過ごしていく仲間がどんな人たちなのかという期待と同時に、新潟に知り合いが誰もいない不安とでいっぱいでした。しかし、約３か月が過ぎた今、新潟での私の大学生活は想像していたよりも何倍も楽しく、充実しています。

今年はコロナが落ち着いて初めての春ということで、ほとんどの授業が対面授業になったり、早期臨床実習での病院見学が再開したりしています。大学の授業でいつもいちばん楽しみにしているのは早期臨床実習です。歯学の知識が全くない私にとっては見るもの聞くもの全てが新鮮で、たくさんの刺激を得ています。中でも特に印象に残っているのは患者役実習です。１年生は６年生の先輩方から治療体験を受けさせていただきました。１年生にたくさん話しかけたり、教えてくれたりしながら治療をしている６年生の姿は本当にかっこよくて、憧れを感じました。私が５年後に今の６年生のようになっている姿は全く想像できませんが、６年生の先輩たちに少しでも近付けるように、これからたくさんのことを学んで努力していきたいと思います。

次は部活についてです。私は小学校と中学校でバスケ部に所属していましたが、高校ではバスケから離れていたので、なんだか物足りなさを感じていました。そのため、大学では絶対にバスケ部に入りたいと決めていました。今は週２回全力でバスケができるのがとても楽しいです。しかし、バスケをすることができる以上にバスケ部に入ってよかったと思うことがあります。それは、たくさんの先輩方との出会いです。バスケのことや大学生活のことなど多くのことを教えてくださり、とても頼りになる方々ばかりです。私たち１年生は先輩方がいつも楽しませてくれることがとても嬉しいです。今は、８月に茨城県で開催されるオールデンタルに先輩方と一緒に出場できることがとても楽しみです。

最後に同期についてです。１年生のうちは全員で顔を合わせる機会が週に１回しかないのでまだ話をしたことがない人もいるのですが、今年久しぶりに開催された歯学部運動会を通して確実に距離は近くなりました。同期のみんなとは、この先楽しいことも大変なこともある大学生活を一緒に過ごしていくことになります。お互いに助け合いながら、みんなで頑張りたいと思います。このメンバーで過ごすこれからの６年間が楽しみです。

まだまだ未熟ですが、楽ではない楽しさを追求し、何にでも全力で取り組んで過ごし、将来立派な歯科医師になれるよう頑張ります。

入学者の言葉

歯学科１年　三　友　湧　斗

時の流れは早いものですね。気が付けば入学から３か月、そして入試からは４か月も経ってしまいました。２次試験の面接で何も話せず、帰りの新潟駅の新幹線ホームで泣きそうになっていた自分がここにいるのが今でも時々不思議な気持ちになりますね。そんな僕が今回「歯学部ニュース」執筆の機会をいただけたので、大した話ではありませんがお読みいただければ幸いです。

申し遅れましたが、三友湧斗と申します。出身は埼玉の川越、蔵造りの街並みや時の鐘といった観光地があるので、是非一度来てみてください

ね。部活は医歯学部ワンダーフォーゲル部、歯学部スキー部、クイズ研究部に所属しています。登山とクイズは高校からやっていました。

そんな僕ですが、音楽鑑賞が好きで特にB'zのファンクラブに入っているので、ここでB'zの曲を一曲紹介したいと思います。今回紹介するのは『Pleasure～人生の快楽～』です。この曲は年によって歌詞が変わるライブの定番曲で、ファンの間でも人気の曲になっています。あくまで僕なりの解釈になります。著作権の関係上歌詞が掲載できないので興味がある方は調べてみてください。

主人公と“あいつ”は学生時代の音楽仲間。共に夢を追い、他愛もない話で盛り上がれる仲間だったが、“あいつ”は大手に就職し、家族を持ち、２人は疎遠になっていく。そんな一見“普通の生活”を選んだ“あいつ”も波乱万丈な人生を歩んでいくことになる。夢だけを追い続ける主人公と、夢を捨てて“人間らしい生活”を選んだ“あいつ”。果たして“この街に丸め込まれた”、すなわち社会の波に飲み込まれたのはどちらなのか。

ここまでが１、２番の内容です。ではラスサビを見ていきましょう。たとえあの頃が輝いていたとしても、もう過去には戻れない。今の自分自身がどのような状況にいてもそれは過去の自分が選択した道。だからこそ精一杯に胸を張って自分の道を進んでいくしかない。そういう稲葉浩志さんの強いメッセージが感じられます。

幼いころから歯科医師になりたかった人もいれば、人によって希望する進路ではなかった人もいるかもしれません。僕自身ここには自ら希望して来ましたが、18歳の少年が一生歯科医師として生きていくという決断を下したことに不安の気持ちもあります。それでも自分で選んだ人生、突き進んで行きたいと思います。まだまだ大学生活始まったばかりですが、６年間の大学生活、そして長い人生で沢山の“Pleasure”を手にしたいものですね。

入学者の言葉

口腔生命福祉学科１年　小笠原　　舞

入学して３か月が経過し、ようやく大学生であることに慣れてきました。この３か月は一日一日が人生で一番濃かったように感じました。大学生活に憧れがあったので実際に生活をしてみて、苦労することもありますが充実した日々を過ごすことができています。

大学生となり、高校生の時と比べて一番変わったことは時間の使い方です。高校生の時は時間割が決められており、自由に使える時間が限られていましたが、今は自分で考えて行動することができます。一人暮らしを始めて初めのうちは、契約しなければならないものや、用意しなければならないものが沢山ありました。それを終わらせるのには空きコマの時間がとても役に立ったので、やることが多い分自由な時間も多いのだと感じました。前期は免許を取るという目標があったのですが、空きコマや授業終わりの時間を活用してもう少しで卒業検定というところまで来ました。目標達成に向けてあと少し頑張りたいと思います。後期はもう少し時間が増えるので、バイトなどのやったことがない事に挑戦していきたいと思います。

また、私は部活やサークルに入ったのですが、入ってよかったと心から感じています。部活は歯学部の硬式テニス部、サークルは全学のモアチャットという硬式テニスのサークルに入りました。中高とテニスをしていたので、またテニスがしたくなりどちらも硬式テニスを選んでしまいました。どちらでも楽しくテニスをしているのですが、特に部活が楽しく、毎週の楽しみになっています。私がこんなに部活を楽しめているのは、部活の先輩方がみんないい人ばかりだからです。部活動紹介の時に部長の方が声をかけてくださったことがきっかけで入りました。大学に入ったばかりで心細かったのですが、部活の体験で先輩方が温かく迎えてくれて心強く感じたのを覚えています。部活中は４、５年生の先輩や時々来てくださる先生がアドバイスをしてくれて、少しずつでは

ありますが上達しているように感じています。どんな些細な質問にも真剣に答えてくださるので、教えてもらった側もアドバイスを生かしたいと思い、上手くいっているのだと思います。部活の先輩方には感謝しながら、先輩方に近づけるように見習っていきたいと思います。

私が部活で素敵な人たちと出会うことができたように、大学には新しい出会いが沢山あると思います。今出会えた人たちを大切にしながらも、これからもっと他の活動にも参加して色々な人と大学生活の中で関わっていきたいです。４年間はあっと言う間だと思いますが、毎日楽しみながら頑張っていきたいと思います。

入学者のことば

口腔生命福祉学科１年　大　関　彩　月

はじめまして、こんにちは。入学してから早くも３か月が経過し、もも太郎アイスが美味しい夏日も増えて参りました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。簡単に自己紹介をさせていただきますと、今年度より口腔生命福祉学科に入学いたしました、大関彩月と申します。出身が栃木県なので一人暮らしをしています。引っ越し当初は「すごい、海がある！」と浮かれていた栃木県民ですが、坂や海風に阻まれ、非常に煩わしいスーパーへの買い出しを強いられ苦しむ今日この頃です。

１タームを振り返ると、慣れない一人暮らしやパソコンの操作に一喜一憂し、新大の広大な敷地に体力を奪われ、綺麗な図書館に圧倒される等々でとても新鮮な毎日でした。ゴールデンウィークには約１か月ぶりに地元に帰り、「おふくろの味」に感動し、新潟に戻ってまんまとホームシックに陥りましたが、何とか乗り切ることができました。また、高校時代に失われた体力を復活させようと運動部に所属しようと思い、歯学部と医学部が合同で活動する陸上部に入部しました。全くの未経験で入部したこともあり、練習は真似をしようにも思うようにいかず、大変です。しかし、自分と同じような未経験の同期と励まし合い、先輩方にもたくさん支えられながら活動しています。

さて、新大で過ごしていく中で私が最も幸せに思うことは、たくさんの良き人々に出会うことができ、楽しい日々を送れているということです。歯学部のオリエンテーションや運動会、早期臨床実習、部活を通し、学部学科や学年の垣根を超え、たくさんの友達や頼れる先輩と知り合うことができました。歯学について同じ志を持ち、協力し合える同期と出会うことができたことは私にとって今後４年間の大きな支えとなり、人生の財産となることでしょう。勉学のみならず、日常生活の些細な悩みを打ち明けたり、くだらない冗談を言い合ってふざけたりできる毎日が本当に幸せです。

もちろん楽しいだけでなく、初めての経験から、うまくいかずに戸惑って失敗して悩んで…ということが多々あると思います。そんな時、失敗しないことを目的に、慎重に周りを見て行動することも大切です。しかし、慎重になりつつも新たに挑戦するアグレッシブな精神は、自分自身をさらに成長させてくれる大きな力であると思います。大学生のうちにしかできない失敗や経験は必ずあります。同時に、その経験から学べることはとても大切なものであると確信しています。私はそんな４年間を挑戦とチャンスの時間と捉え、一瞬たりとも無駄にしないよう、邁進してまいります。

最後になりますが、これまで私たちを支えてくださった全てのご家族に感謝申し上げます。2023年度入学の同期の皆さん、最後まで一緒によろしくお願いします。歯学部の先生方、入学して３か月、既に熱心なご指導をありがとうございます。先生方の熱い気持ちに触発され、非常に良い刺激をいただいております。ご迷惑をおかけすることも多く恐縮ですが、今後もよろしくお願いいたします。

入学者のことば

顎顔面口腔外科学分野大学院１年
金　井　爽　海

今年度、新潟大学大学院医歯学総合研究科　顎顔面口腔外科学分野に入学しました、金井爽海と

申します。今回、初めて歯学部ニュース執筆の機会を頂戴しましたので簡単な自己紹介をさせていただきます。

生まれも育ちも新潟県で、大学入学まで新潟市で過ごしました。大学は九州の玄関口、福岡県北九州市にある、九州歯科大学出身です。北九州市は新潟市と同程度の都市ですが、昭和の雰囲気を残した街でさまざまな新旧の文化が入り混じったところでした。初めこそ、新潟が恋しく寂しさが込み上げる日もありましたが、一人暮らしは悠々気ままで、のびのびと6年間を過ごしました。心残りがあるとすれば、飲めたら楽しいだろうなというお店はたくさんありましたが、お酒がほぼ飲めない体質なので素敵なお店を開拓せずに帰ってきたことです。高いお店も行けずじまいでしたので、美味しいお店を紹介してほしいという質問にはいい返答ができそうにありません。

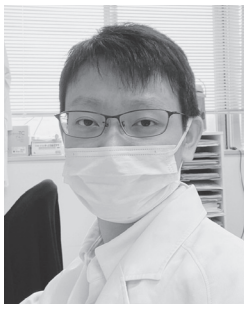
入学した時点で九州で暮らそうとは思っていなかったのですが、6年経ってもその気持ちは同じでした。新潟以外での研修も考えましたが、土地勘のない場所で働き始めて、精神的にきつくなると辛いと思い、新潟大学病院Bコース　前半：顎顔面口腔外科　後半：新潟労災病院を選びました。マッチング出願中は、就職後や10年後の自分の姿を想像する余裕がなかったので、診療科を決めかねていました。臨床実習で回っていたのが口腔外科だったこと、友人に勧められたことから第一志望にし、HPを見て、当時、興味があった口唇口蓋裂（cleft）に力を入れている、顎外を書きました。

研修医として働き始め、病棟、外来の仕事をひと通り覚えられるようになった夏頃、顎外でもっと技術を学びたいと思い、入局を決めました。有難いお話があり、研修医修了後に関連病院で一般歯科を中心に1年間学ばせていただき、現在に至ります。大学院生として3か月が過ぎましたが、病棟でも外来でもできないことだらけで日々、先生方からお叱りの言葉を受けています。目下の課題は、自分が自信を持ってできる処置を一つひとつ増やすことです。また、埋伏智歯抜歯を焦らず、丁寧に正しく行うことなど、口腔外科の基本を習得最中です。現段階では口唇口蓋裂や顎変形症のようなmajor surgeryを自分が執刀する日が来るかどうかは見当もつきません。まずは口腔外科が嫌になるまで、やりたくないと思うまでは努力を続けたいと思っております。

最後になりますが、無知、無力な自分に対し、温かく指導してくださる環境が整っていることに感謝申し上げます。上級医の先生方にはご迷惑をかける毎日ですが、少しでも期待に応えられるように邁進して参りますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

入学者のことば

う蝕学分野大学院1年　高　橋　竜　平



新潟大学大学院医歯学総合研究科 う蝕学分野 博士課程1年の高橋と申します。この度、歯学部ニュース「入学を祝して-入学者のことば」執筆の機会をいただき、僭越ながら寄稿させていただきます。

私は、新潟大学歯学部歯学科を卒業した後、新潟大学歯科医師研修プログラムBにて、前半を新潟大学医歯学総合病院の歯の診療科、後半を魚沼基幹病院の歯科口腔外科にて研修を修了し、大学院新潟大学医歯学総合研究科のう蝕学分野へ入学しました。歯科医師研修では、先生方にご指導をいただきながら、修復治療・根管治療、抜歯、インプラント補綴、顎切、周術期管理、全身麻酔など数多くの診断・治療を学ばせていただきました。また、治療方法だけでなく歯科医師として患者さんとの向き合い方、コメディカルとの連携、地域のコミュニティとの付き合い方など研修を通して、医療人としての在り方を学べたと実感しています。歯の診療科、魚沼基幹病院での研修を通して、指導医の先生、医局の先生、衛生士、看護師、MR、薬剤師、病理医のみなさんには大変お世話になりました。研修で学んだことは、これからの長い歯科医師人生の様々な場面で生きてくると思います。この場を借りて、感謝を申し上げ

ます。

研修・進学先は、学部時代に「分からなかったこと」を自分の中で飲み込んだ上で実際に診療を行いたいという思いから選択しました。例として、歯の保存の可否判断や治療法・歯科材料の選択などが挙げられます。また、世間では歯科治療において、歯をすぐ抜く歯医者はやめた方がいいという考えが見受けられるように思います。これは、治療の説明不足や治療方針の差異によるものと思われますが、このような日々の診療の疑問や患者さんの不安に対して、エビデンスに基づいて説明でき、治療方針を立てられるようになりたいと考えていました。歯の診療科では、修復治療や根管治療など、歯の保存の可否に関わる疾患の診断・治療を行っており、魚沼基幹病院では抜歯・再植からインプラント補綴まで学べたため、これらの疑問に対応することが少しずつできるようになったと思います。

研修中に一番難しいと感じたのが、歯を残せるかどうかの判断です。基本的な診断はもちろんですが、選択できる治療法の予知性や自分の技術、年齢や疾患などのバックグラウンドなど様々なことを考慮に入れて、患者さんと検討していく必要があります。ベストではなくても、より良い選択ができるようになりたい。基礎的、臨床的にエビデンスに基づいた治療を行いたいという思いから、私は大学院のう蝕学分野へ進学することを決めました。

現在は大学院にて、バイオフィルムの研究を行っています。細菌と細胞の両面からアプローチするため勉強することがたくさんあります。大学院生活は、始まったばかりで、難しいことや大変なこともありますが、指導医をはじめ教室の先生方に助けられながら、日々楽しく充実した生活を送っています。これからも、研究活動、診療において自分の目標とする歯科医師像に近づけるよう、日々努力したいと思います。

入学者のことば

口腔生命福祉学専攻博士前期課程１年
佐々木　史　佳

私は16期の編入生として口腔生命福祉学科に入学、２年間の学生生活を経て卒業し、就職と同時に大学院に進学しました。最初は就職活動だけをしていましたが、必ずと言って良いほど編入の動機や歯科と福祉を両方学ぶ意義を問われることがあり、自分がしてきたことが認められるのか不安が生じました。コロナ禍の入学で想定してはいたものの、福祉を勉強しに入学したのに福祉実習ができず、「福祉の現場」のイメージができないまま卒業して形だけの資格を取ることにも疑問を覚えました。口腔生命福祉学科の永遠の課題のように思えますが、ダブルライセンスをどのように活かすか。元々、歯科に加えて福祉の視点も持ち、人々の生活に密着した支援ができるようになりたいというのが私の中でありました。福祉サービスを利用する方と関わる仕事を通して、口腔保健に関する情報や重要性を、普段歯科を受診しない方にも伝えたい。そして、少子高齢社会における歯科と福祉の繋がりについて自分の力で形に残したいと思い、進学を決めました。

今年の新入生のほとんどが社会人生活との両立なので、大学院の授業は先生と課題をメールでやり取りしたり、日程調整をして月に数回対面授業を行ったりしています。研究の方では、先生とテーマや調査方法の打ち合わせを行っている段階です。倫理審査など研究を進めるために必要な準備や手続きがあることが分かり、世の中で行われている研究の流れや各所への配慮を知ることができました。私はこのような学生生活を送りながら、デイサービスで介護職員兼生活相談員として勤務しています。業務内容にはありませんが、利用者さんの歯磨きの様子を見て道具の使い方を教えたり、自分から進んで歯磨きをしない方に声をかけて歯磨きを促したりしています。歯科衛生士として働いたことはないにしても、利用者さんのお口の状態で気になるとことがあれば他職種から意見を求められたこともありました。その時に、

課題で歯科関係の論文に触れたり、自分で調べたりすることで、知識の再確認やアップデートができ仕事にも役に立つと実感しました。口腔保健に詳しいということを自分の強みにして、利用者さんが満足できるサービスの提供や新規顧客の獲得に繋げていけたらと考えています。

最近は、会社がデイサービスで口腔機能向上加算を算定する取り組みを始めようとしています。健康寿命延伸のため介護を通して口腔保健の大切さをより多くの方に伝えたい、という目標に一歩近づき始めているため、仕事で期待されるダブルライセンスの役割を果たすためにもどちらの勉強も続けなければと思っています。今後は口腔健康状態とADLについて研究しようと計画を立てており、良い結果が出ることを期待してデータ収集や分析を行っていく予定です。論文投稿にも興味があるので、形に残し将来誰かの役に立つことを願って研究に向き合おうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

入学者のことば

口腔生命福祉学専攻博士後期課程１年
山　口　萌　絵

今年度より、口腔生命福祉学専攻博士後期課程に入学しました山口萌絵と申します。口腔生命福祉学科を８期生として卒業しました。卒業後数年経ちますが、こうしてまた新潟大学でご指導いただけることを大変嬉しく思います。卒業後の経歴は、地元の歯学部附属病院にて２年間勤務した後、専門的にがん治療に携わりたいという希望があり、静岡がんセンターにて勤務致しました。静岡がんセンターのことを初めて知ったのは、学部生時代に静がんで勤務する歯科衛生士の方の講演を聞く機会があったことがきっかけでした。終末期まで患者さんに寄り添える歯科衛生士の姿がとても印象深く残っており、一度は地元に戻りましたが、御縁があり静岡がんセンターにて勤務することが出来ました。静岡がんセンターでは、周術期口腔管理や口腔支持療法を取り入れたことで有名で、ここでがん治療の流れや周術期口腔管理を学ぶことが出来たことは非常に良い経験となりました。就職後も口腔生命福祉学科の卒業生や先生方とのつながりがあり、現在は愛知県の藤田医科大学病院にて急性期病院の歯科で周術期口腔管理や入院患者の口腔ケアなどを行っております。藤田医科大学病院では、これまでに携わったがん患者だけではなく、心疾患や脳血管障害などをはじめ多様な疾患を抱える患者さんとの関わりを経験いたしました。さらに、摂食嚥下リハビリテーションに歯科も連携しており、間接訓練の介入や嚥下回診の同行など、多職種連携しながら摂食嚥下リハビリテーションも積極的に携わっています。昨年度より、愛知県岡崎市にあります関連病院の岡崎医療センターへ異動となり、また新たな環境となりました。岡崎医療センターの歯科は非常勤歯科医師１名、歯科衛生士２名という体制で、歯科ユニットも１台という、これまでに経験したことのない環境ですが、少ない人数だからこそ、連絡を密に情報を共有しやすく、また多職種との距離も近く連携しやすい環境だと感じております。小規模ではありますが、歯科として貢献できるよう日々診療業務を行っております。

大学院進学の経緯についてですが、以前より進学に興味を持っておりましたが、なかなか実現できずにおりました。学会発表や臨床研究に携わる中で、日常臨床の疑問をテーマに研究計画を立て、自身で研究を進めてみたいという気持ちに至りました。それを実現するために、研究計画や医療統計、データの解析方法などについてさらに知識を深め、臨床研究の精度やスキルを高めたいと思い入学を決意いたしました。まだ入学してから間もなく、これから卒業まで困難が待ち受けていると思いますが、先生方にご指導いただきながら、実りの多い大学院生活にしたいと考えております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。